

鳥取県子連、米子市子連の取組から、 指導者について考える

米子市子ども会連合会 会長 安部 悟
(中四国子ども会連絡協議会 推進研究会委員)

集団指導者

- 集団指導者は、単位子ども会における集団活動の充実と円滑な集団運営に当たるため、**単位子ども会に少なくとも1名は確保したい**ものです。
集団指導者の役割として、次のことが期待されます。
- 集団の理論と実際に通じ、子どもを理解し、その心身ともに豊かな成長を促進すること。
- 単位子ども会活動の指導・助言に当たり、組織の強化を活動内容の充実に努め、子どもの人間的成長を援助すること。
- 単位子ども会の各種指導者・育成会との連携につとめるとともに、特にジュニア・リーダーの指導・助言を行うこと。
- 子ども会では、ジュニア・リーダーの経験を経た若い年齢の青年リーダーは、集団指導者の一員として、その活動が期待されています。
なお、集団指導者となるためには、その任務を全うするため、子ども理解、少年教育の意義、集団の基礎理論、組織と運営、プログラム、指導者の役割と機能、育成会の役割と機能、子ども会を取り巻く課題などの履修が要望されています。

特技指導者

- 特技指導者は、子ども会活動の内容の多様化に伴い、それぞれのもつ専門知識、技術の面から集団指導者と緊密な連携のもとに指導に当たります。子ども会においては、ゲーム・歌唱指導、スポーツ、レクリエーション、郷土芸能などについて社会的に公認された機関・団体の指導者があげられます。子ども会内部で特技指導者を養成する場合も、上記機関・団体で資格を取ることが望まれます。また、ライセンスをもった人が子ども会集団指導者研修を受けること、または、その逆の姿が望まれます。

さらに、地域の人々のもっている特技を子ども会活動に生かせるよう、常に情報を収集整理しておくことも必要です。

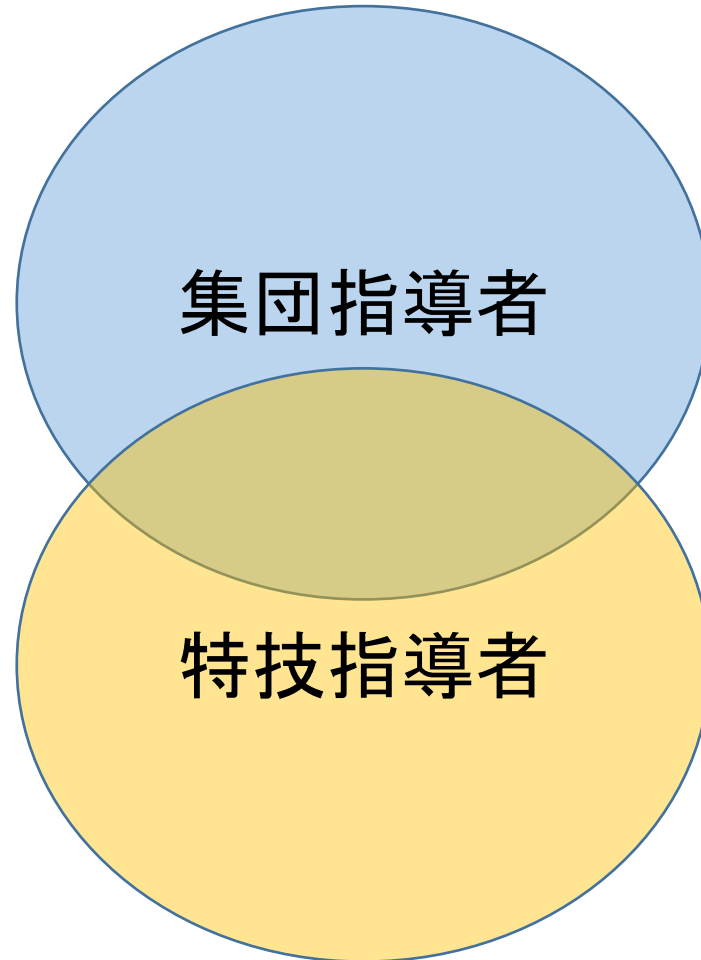
総括的指導者

- 総括的指導者は、単位子ども会や連合組織に対して、総括的・監督的立場や指導・助言に当たる人をいい、直接、子どもたちの指導に当たらないのが原則です。
総括的指導者の役割として、次のことが期待されます。
- 地域における単位子ども会間および広域組織の連携を図り、子ども会活動の全般的な充実発展に寄与すること。
- 関係機関・団体との連絡調整・環境の整備に当たり、子ども会活動の振興を通じて地域社会に貢献すること。
- 広域組織の各種指導者、育成会との連絡、指導、助言および各種指導者の養成・確保を図ること。
- なお、その任務を全うするため、少年教育の意義、子ども会活動の意義、指導者論、集団理論、指導者養成計画・研修、子ども会と行政、子ども会と地域社会、総括的指導者の実務などの履修が要望されています。

さて、指導者の位置付けを分類してみると・・・

パターン1

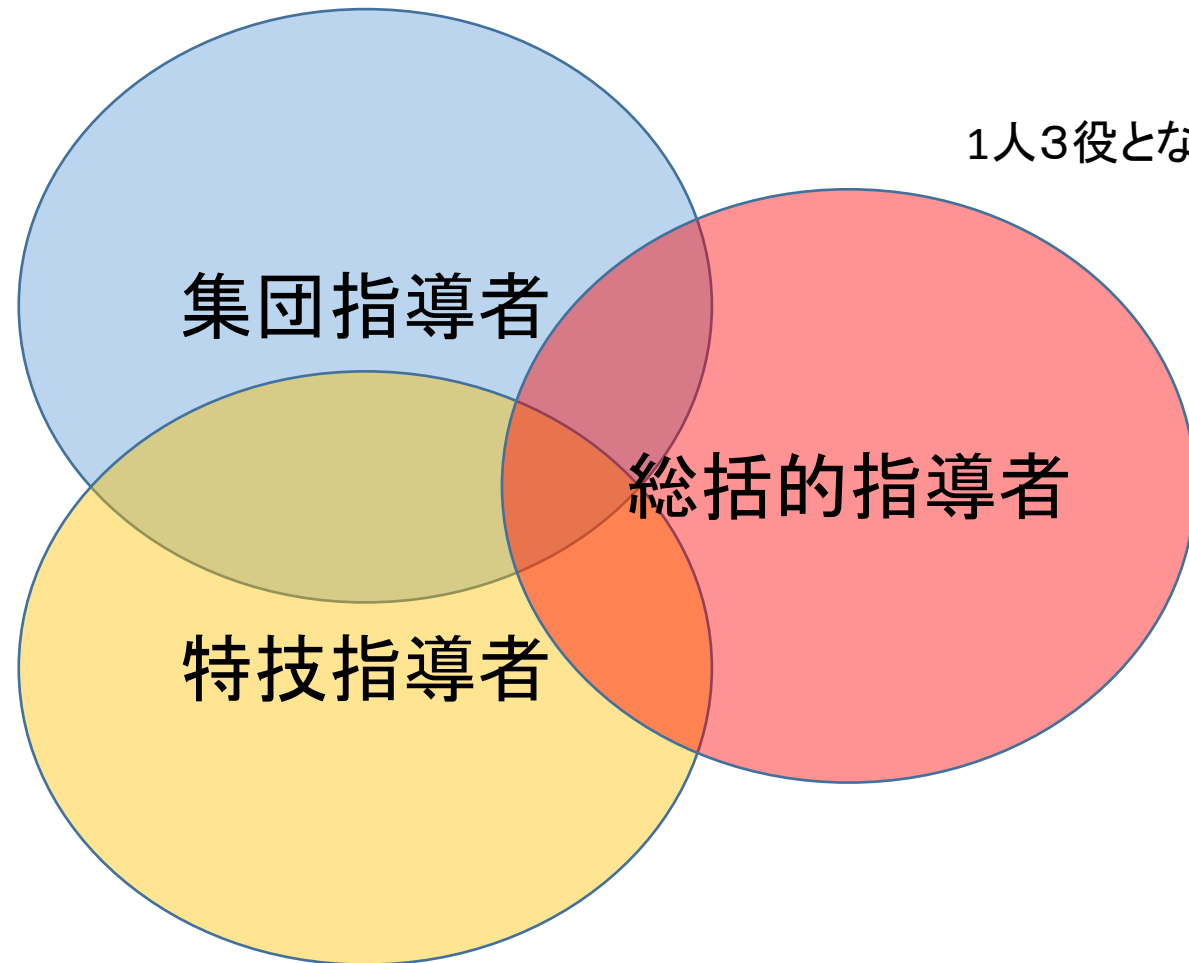
「単位子ども会の会長が子ども会運営をしながら、レクゲームもする。祭り行事で、囃子太鼓の指導をする。」



1人2役となる。

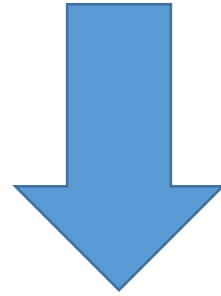
パターン2

「地域の中心的役割の方が、地区子ども会の運営もする。」「たまにはレクゲームをして、子ども達相互の親睦を図る。」「単位子ども会の運営に関して、単位子ども会運営のアドバイスを行う。」



1人3役となる。

持続可能な子ども会組織（子ども会活動）
を目指すために



できれば、それぞれの立場に、別々の人
が中心的にいることが望ましい。

鳥取県子連の場合

このあとの、協議にて
「参加者を絞った方がいいか」
「広く呼び掛けた方がいいか」思案中

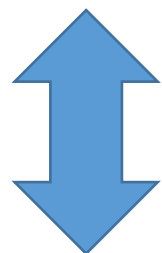
育成者研修を実施・・・年間1回（期間限定で実施することもある）

「対象者」広く関係者に呼び掛ける。行政職員も含む。

○行政職員・・・参加者なし

○子ども会関係者・・・同じような顔ぶれ、地区子ども会役員が参加

地域に総括的指導者が必要であることを伝える



内容やバランスは柔軟に
参加者の様子によって変更
スパイラルにて

今年度一年間、子ども会の指導者として、活動を進める方法を伝える。

米子市子連の場合

育成者研修を実施・・・今年度一年間の子ども会運営についての研修。
「集合研修」「各地区に出向いての研修」 集団指導者としての研修

総括的指導者の育成については・・・実施しにくい現状

「現在の執行部(会長 副会長 各委員長 副委員長)が総括的指導者の立場となっている」

「総括的指導者＝執行部としての活動がついてくる」

事務局はどうか 協力団体担当者はどうか

米子市子連事務局長は・・・

中四国推進研究会の中では、事務局が総括的指導者としての力を発揮すべきとの見解もあるが・・・。

基本的には「不在」・・・会長が兼任。事務局は行政にある。

「こども政策課」(子ども総本部という部局にある。教育委員会と市長部局が混在)

行政の立場から、組織づくりの基盤整備を行える状況
担当者になってから専門知識を蓄える場合もある。

行政の考え方の時代背景による変化

近年の動向・・・「組織づくり」の推進役としての行政担当者

米子市子連の動き

行政サイドからの注目

米子市の地域で重点的に取り組む3本柱

「地域防災」
「フレイル対策」
「子育て支援」

「地域防災」・・・地域防災の旗振りは大人。「共助」の観点から、組織づくりの基盤は自治会。子ども会にてつながりを持っている保護者連携は重要。

「フレイル対策」

「子育て支援」・・・地域での子育てにおいて、子ども達の取り巻く環境づくりに子ども会がどのように関われるのか。

3本柱のうち2本が、子どもの活動に大きくかかわってくる

米子市子連の動き

米子市に全子連会長が存在

「子育て支援」に関連して、**子ども会の現状について、市長が注目。**

→全国規模の会議に市長が参加。米子市職員を全子連に派遣。事務局や子ども会関連の職員配置に尽力。

**事務的な行政職員でなく、子ども会理解のある行政職員の配置
子ども会担当者への子ども会理解研修会の実施**



事務局職員が「総括的指導者」という位置付けとも考えられる。

米子市子連の動き

地域における単位子ども会間および広域組織の連携を図り、子ども会活動の全般的な充実発展に寄与すること。
関係機関・団体との連絡調整・環境の整備に当たり、子ども会活動の振興を通じて地域社会に貢献すること。
広域組織の各種指導者、育成会との連絡、指導、助言および各種指導者の養成・確保を図ること。

各担当課をつなぐ動き

- ・地区公民館担当課、担当者・・・子ども会理解あり
- ・コミスク担当課、担当者・・・子ども会理解あり
- ・市PTA連合会担当課・・・学校教育兼務・・・子ども会理解あり

○お互いの立場から、「地域の子ども達の活動を見直す」チャンス

(今年度、地区公民館担当(地域活動推進コーディネーター)が公民館長や、地区子ども会長などから、地域の子ども達の活動実態を聞き取り。→作戦を練る予定。)

米子市子連役員の 総括的指導者としての動き

【会長】安部

市子連役員（29の地区から選出）の役員負担を軽減し、「子ども達の健全育成に寄与する活動に参加」というイメージ変換を図る。

地区会長（29の地区子ども会代表）への運営アドバイスをを行う。（年間3回程度）

※ここ数年で、地区子ども会が2つ解散。1つ活動休止状態。市子連役員として選出され、名前があがっているが、活動実態のない役員が約半数。

【副会長】矢末 堀口 西林 妹尾

ブロック別研修（各地区に出向いての、育成者研修）の講師。単位子ども会のスタート（年度初め）に合わせて、子ども会運営や、子ども会組織について研修を行う。

西林・・・防災教育にたけている

妹尾・・・シニア、ジュニア関連研修にたけている

堀口・・・関係団体とのパイプ役

矢末・・・居住地域での子ども達を取り巻く団体との連携を密に

など、得意分野での活躍から、市子連を下支え

【各委員長 副委員長】

- ・広報委員長
- ・育成者研修委員長
- ・インリーダー研修委員長
- ・ジュニアサポート委員長

など、自分の所属する委員会の運営を行う傍ら、チャンスを見つけ、子ども会の必要性を自分の言葉で伝える。

【会長】執行部役員の共通認識を図ることが必要となる。

米子市子連から総括的指導者を紐解く

《組織として(行政レベル)》

事務局「こども政策課」

・・・各市子連執行部役員、各地区役員、各地区会長との連携に不可欠。子ども会理解の必要性あり。総括的指導者であることが望ましい。

地域の子育て関連課

・・・「29地区にある公民館」「29地区にいる連合自治会長」「その他関係団体」が、いくつかの行政部署に分かれている。

連携させるために、総括的指導者が必要

・・・行政窓口としての事務局。連携推進としての会長。

「子ども会単独での生き残りの不透明感」と「地域の子育てに注目している団体、個人を連携させる必要性」

全子連、文科省

「社会教育士」を増やすことを推進している＝**総括的指導者としての考え方を広めることにつながる**

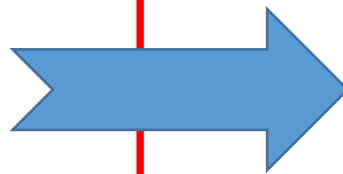
教育現場からのメッセージ

非認知能力の育成・・・点数ではかれない能力

代表的な例

- コミュニケーション力
- 思いやり・共感性
- 忍耐力
- 自身・自尊感情
- 意欲

(岡山大学 中山芳一准教授 著書より)



※見えない力(非認知能力)は学び
合いで育つ

※自分の子どもの周りが育てば、
結果的に自分の子は育つ

(元小学校長 木村泰子 著書より)

まさに、子ども会理論

鳥取県子連の課題と今後に向けて

新たな総括的指導者の育成が難しい。現状、シニアリーダーや、若い育成者の獲得を目指す。また、単年度でも、子ども会活動を進める方々を巻き込むことを目指す。

また、「子ども会活動」が、単独で地域での子ども達の活動を進めるのではなく、子ども達の活動に携わっている方々を連携させる方法を考えていく。

→県教育委員会主催の社会教育担当者会等との連携。

広い意味で、ここで、何かを生み出すのが、「総括的指導者としての役目」

米子市子連の課題と今後に向けて

「役員のなり手不足から、子ども会を解散したい」

「役員が負担である」

→果たして子ども達はどう感じているのか。同じ地域に住む子ども達と楽しく過ごしたいのではないだろうか。

保護者だけでなく、地域に住む大人たちが、地域連携を図る。各行政部署の担当者とともに、地域づくり、地域の子どもの活動推進を検討していく。

→総括的指導者としての役割を果たす。

行政職員のコーディネーターとしての活躍に感謝

総括的指導者のとらえ方（まとめ）

子ども会がその町でどのように生き残っていくかを考えながら、その時代やその地域に合った方法で、各育成者（集団指導者）に伝えたり、気付かせたりする人。

行政職員のバックアップはありがたい。行政職員との連携があることで、米子市は動きやすくなっている。子ども会を知る人が、地域活動をバックアップしていただいている今、まずは、役員が「研修」に限ることなく、現場での活動推進の一翼をになうことで、総括的指導者となりうる。